三原市医師会病院だより

きずな

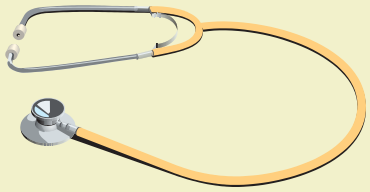
地域医療支援病院
日本医療機能評価機構認定病院
三原市医師会病院

【編集・発行】
〒723-0051　広島県三原市宮浦一丁目15番1号　TEL(0848)62-3113　FAX(0848)62-7505
http://www.mihara-hiroshima-med.jp　E-mail:info@mihara-hiroshima-med.jp
平成19年8月発行　4号

院内教育・研修会

当院では、様々なテーマで各種研修会を開催しています。
5月は、**「AED（対外式徐細動器）の使用とBLS（一次救命処置）について」**
をテーマとし、開催しました。

元気な生活をめざして



副院長　奥崎　健

毎日を元気に生活することはみんなの願いですが、実際の日常生活の中で、自分の健康に配慮する時間をなかなか持てないという方もいらっしゃるでしょう。病気になって初めて、健康であることのありがたさを感じるということはないでしょうか。

ところで、病気は次のように2つに分類することができる事をご存知ですか。

（1）初期から体調不良の自覚があるもの。

（2）初期には症状がなく、かなり進行してから体調不良が自覚されるもの。

（1）で代表的なものは、いわゆる「かぜ」です。多くの人は「かぜ」をひいたと自覚し、しんどいので、自分で用心したり医療機関を受診したりします。このような行動がとられれば、重症化することは比較的少ないでしょう。対応がしやすいという意味では性質の良い病気とも言えます。ただし、「かぜは万病のもと」という言葉もありますので、油断は禁物です。

（2）で代表的なものは、生活習慣病です。実はこちらの方が怖いのです。糖尿病やメタボリックシンドロームなどがこれに含まれます。これらの病態は代謝障害により全身の血管を障害していくのですが、かなり進行してもそれによる体調不良の自覚症状があまりありません。不調に気づかないため放置されてしまい、やがて血管の破綻をきたした場合、脳卒中や心筋梗塞といった生命を脅かす病態になってしまいます。残念なことに、その時点で初めて、この病気による重篤な体調不良を自覚することになってしまうのです。

生活習慣病の予防には何が必要でしょうか。もちろんその名の通り、生活習慣の改善です。喫煙、過食、運動不足などを避けることです。また、自覚症状が出現するのを待っていては時機を逸することになります。定期的に健康診査を受診して、異常を早期に発見することが大切です。もし生活習慣病と診断されたら、自覚症状の有無に関係なく治療していきましょう。この際に是非とも、身近な「かかりつけ医」を持つようにしてください。上述しましたように自覚症状は乏しいわけですから、かかりつけ医の指導のもとで、しっかりコントロールしていけば、元気な日常生活を営めるわけです。

三原市医師会病院は、かかりつけ医の後方支援としての入院診療とともに、健康についての啓発活動としての健康講座の開催、早期発見のための健康診査･人間ドックも行なっています。病気の予防から診断・治療まで、健康にトータルに関わり、地域の皆様の元気な生活のためのお手伝いをしていきたいと思っています。

基本理念

医療を通じて地域に貢献する。

地域の皆様のニーズを第一に考え、地域および会員から支持され、信頼される病院をめざす。

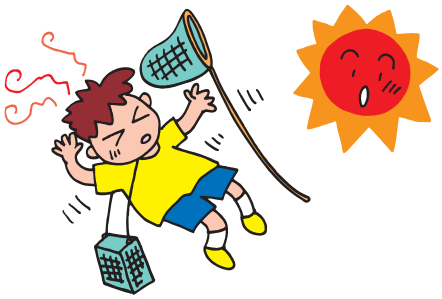
基本方針

私たちは、会員の開放型共同利用を通じて地域医療に奉仕し、健康管理事業を通じて健康増進に尽力します。

私たちは、医療機関相互の連携を図り、地域全体の医療レベルの向上に努めます。

私たちは、患者様の権利を尊重し、安心して質の高い医療を受けることができるよう努めます。

病気、健康、予防の話



熱中症への備え

久保田　益亘（内科）

地球温暖化が昨今、問題になっています。海面水位の上昇による土地の喪失、豪雨や干ばつなどの異常気象、水不足、熱帯性の感染症の増加、エアコンを使うことによる電力消費量の増加…。その影響は、様々です。しかし、最も深刻な影響が我々の体にも及びつつあります。そう、『熱中症』の患者さんの増加です。暑さに比例して近年熱中症になる人が急増しています。

真夏日数と熱中症死亡数とは有意な関係を認めており、これまでの統計で熱中症による死亡が多発した1978年、1983年、1990年、1994年、2001年には、年最高気温が38℃以上でした。本格的な夏を迎えた今、我々は、患者さん、医療スタッフに関係なく、熱中症に関する備えをしておかなくてはなりません。

みなさんは、熱中症と聞いたとき、どのような病気を考えられるでしょうか？炎天下の中で激しいスポーツをして、水分補給が足りなかったから、脱水になって倒れた。という場面を想像する方もおられるでしょう。しかし、決して忘れてはならないのが、熱中症は、室内でも、運動をしていなくても起こりうるということなのです。特に、お年寄りの場合は、体の調節機構が崩れやすいので、熱のこもった室内にいるだけでも、油断をしていると、あれよあれよという間に熱中症になっていたということも希ではないと考えられます。

それでは、熱中症の場合、どのような症状が出るのでしょうか。まずは、口渇、めまい、発汗、筋肉のこむら返りなどがあらわれます。これらの症状は風邪と勘違いしやすく、見過ごしてしまいがちです。さらに熱中症が進行すると、頭痛や嘔吐、倦怠感や虚脱感などを自覚します。この段階をすぎると、ついには意識を失ってしまったり、痙攣がおきたり、腎臓や肝臓などの臓器不全がおきるのです。ここまで来ると、命を落とす危険が出てきます。

熱中症の予防で大切なことは、症状をよく観察し、熱中症かな？と疑ってかかることです。また、適度な水分補給を欠かさないこと、室内で過ごすときは、室温をあまり上げすぎないようにすること、体温測定を行うこと、無理をしないことを心がけることも大切です。

そして、熱中症を疑えば、安静にし、水分を補給しましょう。重症になれば、病院での、点滴、体温管理、血液検査、場合によっては、酸素投与や腎不全、肝不全の治療が必要となります。

重症の熱中症の場合、適切な初期治療が速やかに行われれば、生存率は9割に達しますが、治療が2時間以上遅れた場合には、死亡率が70%以上といわれています。

夏の暑い日に、体調の変化を感じられたら、ご遠慮なく内科を受診して頂くようお願い致します。

熱中症のⅠ～Ⅲ度分類

重症度	症状	検査・治療
Ⅰ度（軽症）	こむら返り･立ちくらみ	水分摂取（輸液）
Ⅱ度（中等症）	疲弊感など	血液検査・輸液
Ⅲ度（重症）	脳神経症状など	血液検査・冷却 全身管理

予防、症状の早期発見が大切!!

呼吸器外科　専門外来を開始しました。

本年４月から広島大学原医研腫瘍外科の岡田守人教授による呼吸器外科の専門外来の診察を開始しました（金曜日午前中）。岡田教授のプロフィールを紹介いたします。

岡田守人プロフィール

広島大学・教授
広島大学原爆放射線医科学研究所ゲノム疾患治療研究部門・腫瘍外科
広島大学大学院医歯薬学総合研究科
環境省中央環境審議会・専門委員

留学

1999年－2002年　米国ニューヨーク・コロンビア大学・胸部心臓外科

学会

日本外科学会：指導医・専門医
日本胸部外科学会：指導医・評議員
日本呼吸器外科学会：指導医・評議員・常任編集委員
日本肺癌学会：評議

広島大学・教授
岡 田 守 人

岡田教授の専門は肺癌・呼吸器外科です。日本の腫瘍外科領域のオピニオンリーダーとして、特に呼吸器外科領域では機能温存手術（縮小手術、気管支血管形成術）、低侵襲手術（胸腔鏡アプローチ）、中皮腫診療（胸膜肺全摘手術を含めた集学的治療）で、常に最新の情報を世界に向けて発信し続けています。患者様に最先端・最高レベルの手術を含めた医療を提供すること、決して妥協しない姿勢で新しい治療法へチャレンジすること、実際の診療に直結する難治癌克服のための研究を実践することを常に考えられています。金曜日の午前中が診察日となりますので、御相談のある方は是非来院ください。

文責／腫瘍外科　船越 真人

院内教育・研修会開催

AED（対外式徐細動器）の使用とBLS（一次救命処置）」

表紙でもご紹介しましたが、職員教育として、第1回「AED（対外式徐細動器）の使用とBLS(一次救命処置)」についての研修会を開催しました。昨年、AED設置を機に今年度より院内教育計画で医師、看護師以外の他職種への初の試みです。ACLS（二次救命処置）を習得した主任看護師が講師として指導にあたました。

一次救命処置はその場に居合わせた人が行える処置です。院内だから…医師や看護師がいるから…安心ではなく、救急場面に遭遇した時、病院で働くものとして医師や看護師が駆けつけるまでどうすべきか？また、院外で遭遇した時はどうすべきか？4グループに分かれ、意識の確認、気道確保、呼吸確認、人工呼吸、心マッサージ、AEDの使用方法などについてアドバイスを受けながら実践することで、知識や技術を身につけることができました。会場は一人ひとりの真剣な取り組みと活発な質問で熱気溢れ、気迫さえ伝わってきました。毎年、繰り返し研修することで職員一人ひとりの、救急時における意識・知識・技術の進化・向上に努めていきたいと思います。

（院内教育・研修委員会）

院内
部署だより

診療部　リハビリテーション科

地域の皆様こんにちは。
当院のリハビリテーション科は、理学療法士6名と作業療法士4名、言語聴覚士2名が所属し、総合リハビリテーション施設の承認を受けています。対象の患者様は、急性期から在宅まで、脳血管障害や整形外科疾患、神経・筋疾患、呼吸器疾患など幅広い層に対応しております。

理学療法は、何らかの病気やケガ等によって起こった障害に対して、運動療法（関節運動、筋力強化、治療体操等）や基本動作練習（寝返りや起き上がり、歩行等）、痛みや腫れを改善する為の物理療法（電気、温熱、水、光線等）、装具療法を行います。

作業療法は、普段何気なく行っていた生活が難しくなった患者様が、主体的な活動（趣味活動等）や生活を送れるように、生活全般に関わる支援を行っています。馴染みのある活動を用いて、身体能力の改善や、生活動作（食事やトイレ動作等）の練習を行い、その人の能力を最大限に引き出せるように手助けをしていきます。

言語聴覚療法は、何らかの原因により、言語・聴覚・発声・発音に問題があり、コミュニケーションをとることが難しい方や、摂食・嚥下（食べたり、飲んだり）に問題がある方に対する治療と、患者様を取り巻く周囲の方々へのアドバイス等の援助を行います。

また、当科では必要に応じて、各々の患者様の生活環境に合わせた福祉用具の選定や住宅改修・環境調整を行っています。

上記のようなそれぞれの特徴を生かして、私達は患者様の個性や生活史を大切にし、『その人らしい』生活を送れるよう支援する事を目指しています。

これからも、私達は相互に協力し患者様にとってよりよいサービスを提供していくことができるように努力していきたいと思います。

理学療法

作業療法

言語聴覚療法

職場体験学習

6月18日から5日間の日程で、市内中学生の方2名が看護業務を体験されました。足浴、洗髪、移送や処置の介助など、患者様の身の回りのお世話を体験していただきました。

このたびの体験が、将来の進路や働くことの意義を考える上で、貴重な経験となっていただければうれしく思います。

診療体制一覧表

	月	火	水	木	金	土
内　科	山田剛司	奥崎　健	山田剛司	奥崎　健	桑原将司	大久保博史
循環器内科					荘川知己	
神経内科	第2・4 越智一秀					
外科･腫瘍外科	船越真人	住元　了	岡脇　誠	船越真人	住元　了	住元　了
手術日	●		●			
整形外科	安原慎治	安原慎治	休診日	安原慎治	安原慎治	安永裕司
手術日				●		
呼吸器外科					岡田守人	
泌尿器科						広大派遣医師
透　析	住元　了	住元　了	住元　了	住元　了	住元　了	住元　了

受付時間／休診日

◆外来受付／

午前　8:30～12:00

当院は紹介型の病院です。かかりつけ医の先生方からご紹介いただいた患者様の診療を行う病院です。受診の際には必ず、**紹介状**をお持ちください。

◆休診日／

日曜、祝日、8月14日･15日
年末年始（12月29日～1月3日）

休日診療時間

※休日には、院内併設の三原市医師会休日夜間急患診療所で診療しております。

◆内科・外科　平日／17:30～翌8:30、日･祝日／8:30～翌8:30
◆小　児　科　月～金（祝日を除く）／19:00～22:00（但し、8月14日･15日、12月29日～1月3日は休診）

検診・人間ドックのご案内（要予約）

当院では、最新の検査機器、高度な検査技術により、生活習慣病などの早期発見、早期治療、予防のお役に立ちたいと思っています。また地域医療支援病院として、地域の皆様の健康づくりにも貢献していきたいと考えています。

毎週：月･火･木･金曜日（１泊２日は月～木曜日）

- **人間ドック**（日帰り、1泊2日、脳ドック、婦人科ドック、肺ドックなど）
- **政府管掌生活習慣予防健診**
- **国民健康保険によるドック**

毎週：火･水･金･土曜日（祝日、盆、年末年始を除く）

- **市民健診**

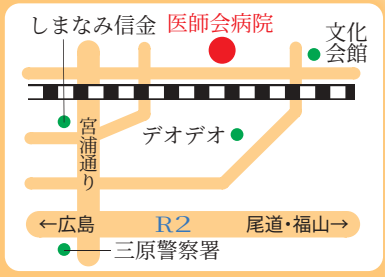
※ご予約は、三原市総合福祉センター（サンシープラザ内☎67－6061）になります。

患者様の権利

1 良質の医療を受ける権利	患者様はだれもが差別なく適切な治療を受ける権利があります。
2 尊厳性への権利	患者様は人格（人間の尊厳）を尊重された医療を受ける権利があります。
3 情報を知る権利	患者様は治療や症状について十分な説明を受ける権利があります。
4 自己決定の権利	患者様は十分な説明を受けた後、治療法を選択する権利があります。
5 秘密保持に関する権利	患者様は個人情報やプライバシーが守られる権利があります。

交通案内

■徒　　歩　三原駅より20分程度
（JRの高架に沿って広島方面に進んでください。）
■タクシー　三原駅より5分
■バ　　ス　三原駅前バス４･５番のりばにてご乗車ください。



※バスの行き先・経路により、降車バス停が異なります。
『文館・医師会病院入口』、『西小入口』などで降車してください。
いずれのバス停からでも徒歩数分でお越しいただけます。
駐車場はございますが、公共交通機関などのご利用をお勧めします。

かかりつけ医をもちましょう